

(23) イカナゴ資源生態調査

調査方法

1. 仔魚分布調査

1) 調査実施日

第1回調査：2007年1月9、10日

第2回調査：2007年1月22、23日

第3回調査：2007年2月5、6日

2) 方法

ボンゴネットによる湾内12点での往復傾斜曳き採集

2. 漁獲物測定調査

1) 調査実施日

2007年2月28日～3月23日

2) 方法

中部地区の岸和田市漁協と南部地区の深日漁協において、漁期間中の漁獲物を原則として1週間に1回以上の頻度で採取し、100尾について全長を測定した。

調査結果

1. 仔魚分布調査

調査の結果をもとに、2007年2月13日に発表した「イカナゴしんこ漁況予報（平成19年）」を「資料1」として示す。

2. 漁獲物測定調査

測定結果を表1に示す。

担当者

日下部敬之、大美博昭、中嶋昌紀

表 1 イカナゴ資源生態調査、漁獲物測定調査結果

漁協名	平均全長(mm)	標本標準偏差
2007/2/28 深日	40.1	5.83
2007/3/1 岸和田市	36.2	7.08
2007/3/2 深日	34.0	8.19
2007/3/3 岸和田市	33.2	8.24
2007/3/3 深日	33.0	8.22
2007/3/6 岸和田市	31.3	6.23
2007/3/7 深日	34.3	5.67
2007/3/9 深日	33.2	5.63
2007/3/10 深日	33.7	5.90
2007/3/13 岸和田市	37.2	5.33
2007/3/15 深日	40.2	8.06
2007/3/19 岸和田市	37.9	8.15
2007/3/19 深日	37.1	6.16
2007/3/21 岸和田市	40.0	6.72
2007/3/23 岸和田市	33.0	10.00

各サンプルとも100尾を測定。

イカナゴしんこ漁況予報（平成19年）

平成19年2月13日

大阪府立水産試験場

◎水温（図1）

水温の高低は、イカナゴ親魚の産卵時期（水温低下が産卵の引き金となる）や、ふ化した仔魚の成長（水温が高い方が成長が速い）、生き残り率（低水温の方が良い）などに影響を与える。今冬は暖冬で、水温は平年並み～高めで推移している。特に、1月中旬以降は高め傾向が強まり、2月上旬現在で平年値を約1.4℃上回っている。気象予報によれば、2月の気温は高め傾向と予想されており、水温も今後しばらくは平年より高い状態が続くものと考えられる。

◎季節風（図2）

季節風（特に西風成分）は、播磨灘から大阪湾に向かう海流を強め、イカナゴ仔魚の大阪湾への流入量を増大させる。また、仔魚の散らばりを促進することによって、生き残りにプラスに働く。今期の西風は、暖冬の影響を受けて平年よりも弱め傾向で推移している。

◎産卵量および産卵期

兵庫県水産技術センターは、大阪湾で漁獲されるイカナゴのおもな産卵場である、播磨灘鹿ノ瀬海域で産卵親魚の調査を行なっている。その結果によると、今期の鹿ノ瀬海域での総産卵量は多く、昨シーズン（例年に比べて多かった）の約1.5倍であったと推定されている。一方、親魚の成熟状況から推定された産卵盛期は12月26日～1月4日頃であり、昨シーズンより約1週間ほど遅かった。これは、水温低下が昨シーズンより遅れたためと考えられる。

◎仔魚の出現状況（図3、4）

今期も、大阪湾内に設けた12の調査点において、プランクトンネットによるイカナゴ仔魚採集調査を3回実施した。

1月9、10日に行なった第1回調査では、明石海峡部近くの点を中心に、おもに湾の西半分で仔魚が採集された。1点あたりの平均採集数は48尾であった。採集された仔魚は、ほとんどがふ化後間もない小さなサイズのものであった。

第2回調査は1月22、23日に行なったが、仔魚の出現数は1点あたり平均111尾で、極めて多かった昨年の約9分の1で、例年と比較してもこの時期としては少なめであった。分散状況はまずまずであったが、湾南部の海域では少なかった。平均全長は4.4mmで、1回目調査で採集された仔魚より後に生まれた群れが主体になっていた。

2月5、6日に実施した第3回調査では、1点あたり平均仔魚数は42尾で、2回目調査より減少していた。淡路島北～中部沿岸から関西空港へかけての海域では比較

的多くの仔魚が採集されたが、湾奥や湾南部の点での採集数は少なく、分散状況はあまりよくなかった。仔魚の平均全長は7.4mmであった。

◎イカナゴしんこの漁況見通し

以上のように、今期は産卵量は多かったものの、ふ化以降の西風や水温の条件はあまりよくない。湾内の仔魚の数も現在のところ少なく、分散状況もよくない。これらのことから総合的に判断して、今年のイカナゴ漁開始時におけるしんこの資源量は、昨年および近年の平均的水準を下回るであろうと予測される。なお、水温が高いため、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年より大きいであろう。

図1 大阪湾口部の水温変化

水試前、午前9時の底上1.75m

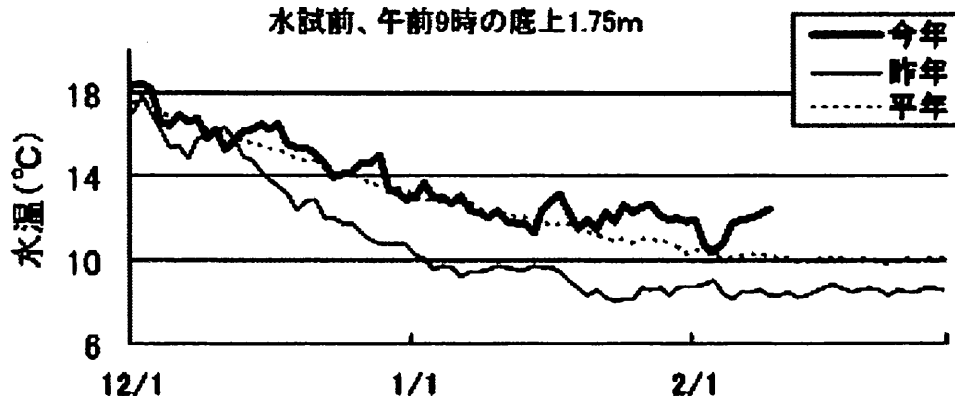


図2 西風成分の平年偏差

水試定置観測、旬平均値

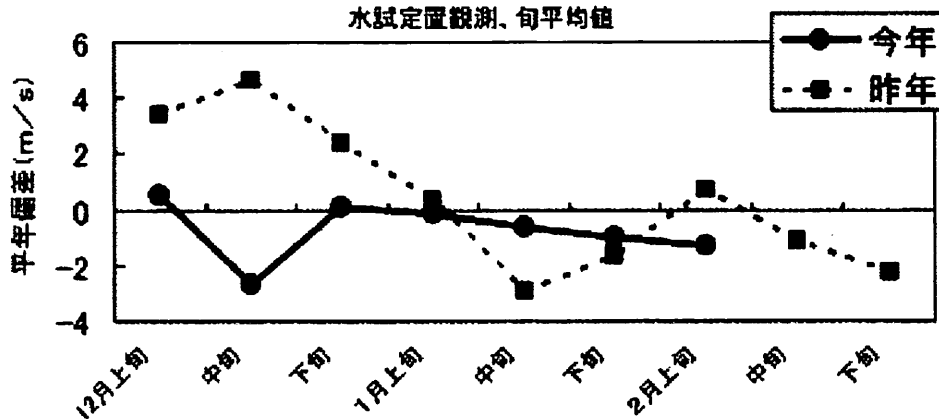
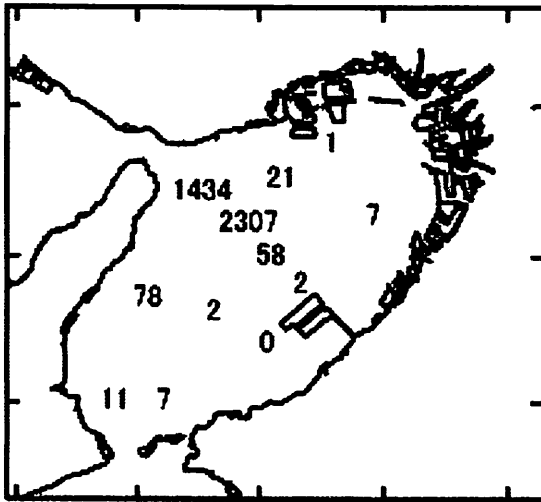
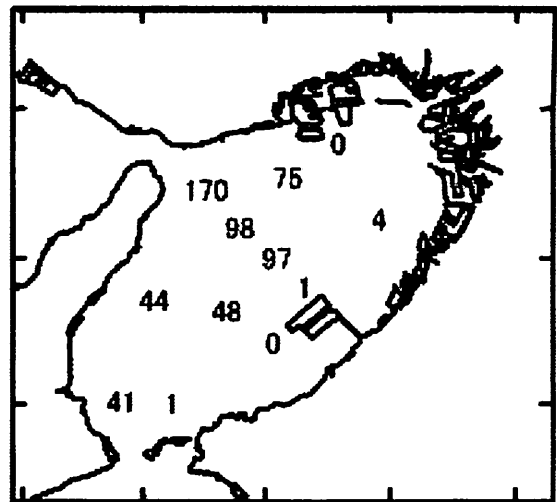


図3 イカナゴ仔魚の採集数

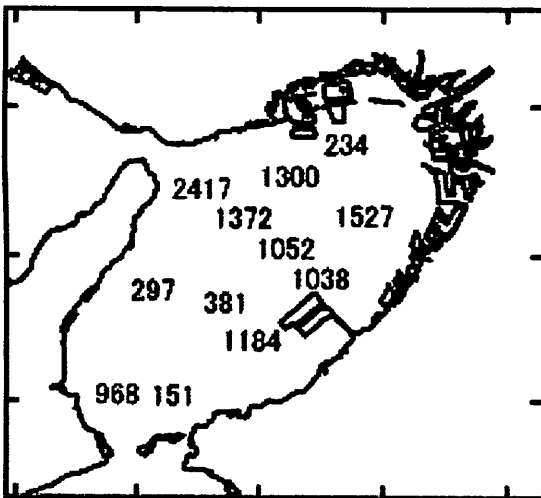
ポンゴネット斜め曳きによる、面積1平方mの水柱あたりの尾数。



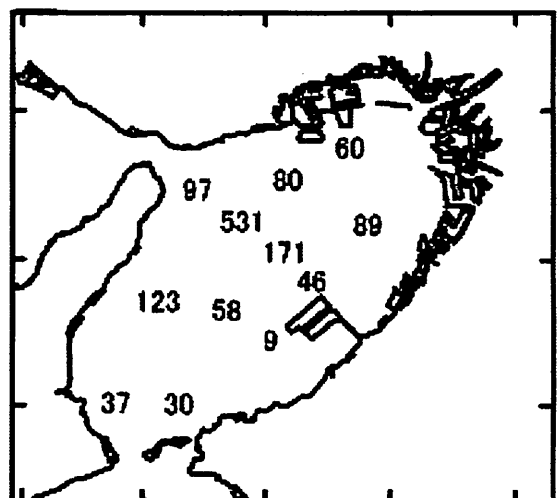
昨年1月10, 11日 平均全長 3.9mm



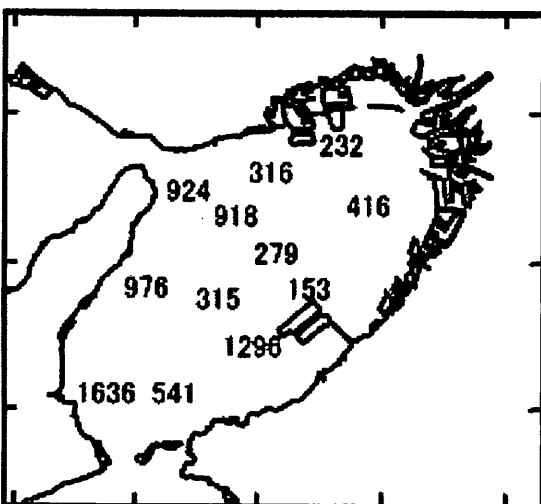
今年1月9, 10日 平均全長 4.0mm



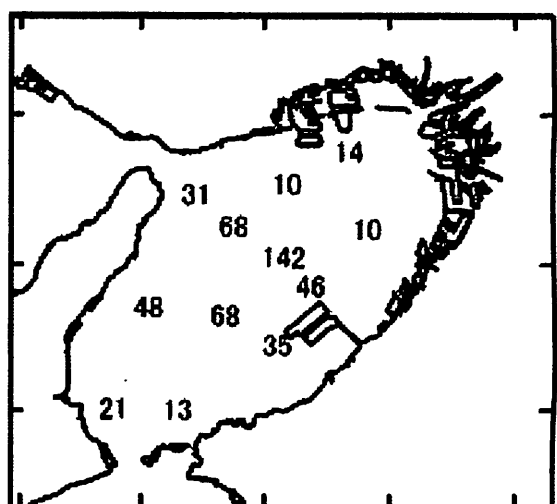
昨年1月24, 25日 平均全長 5.6mm



今年1月22, 23日 平均全長 4.4mm

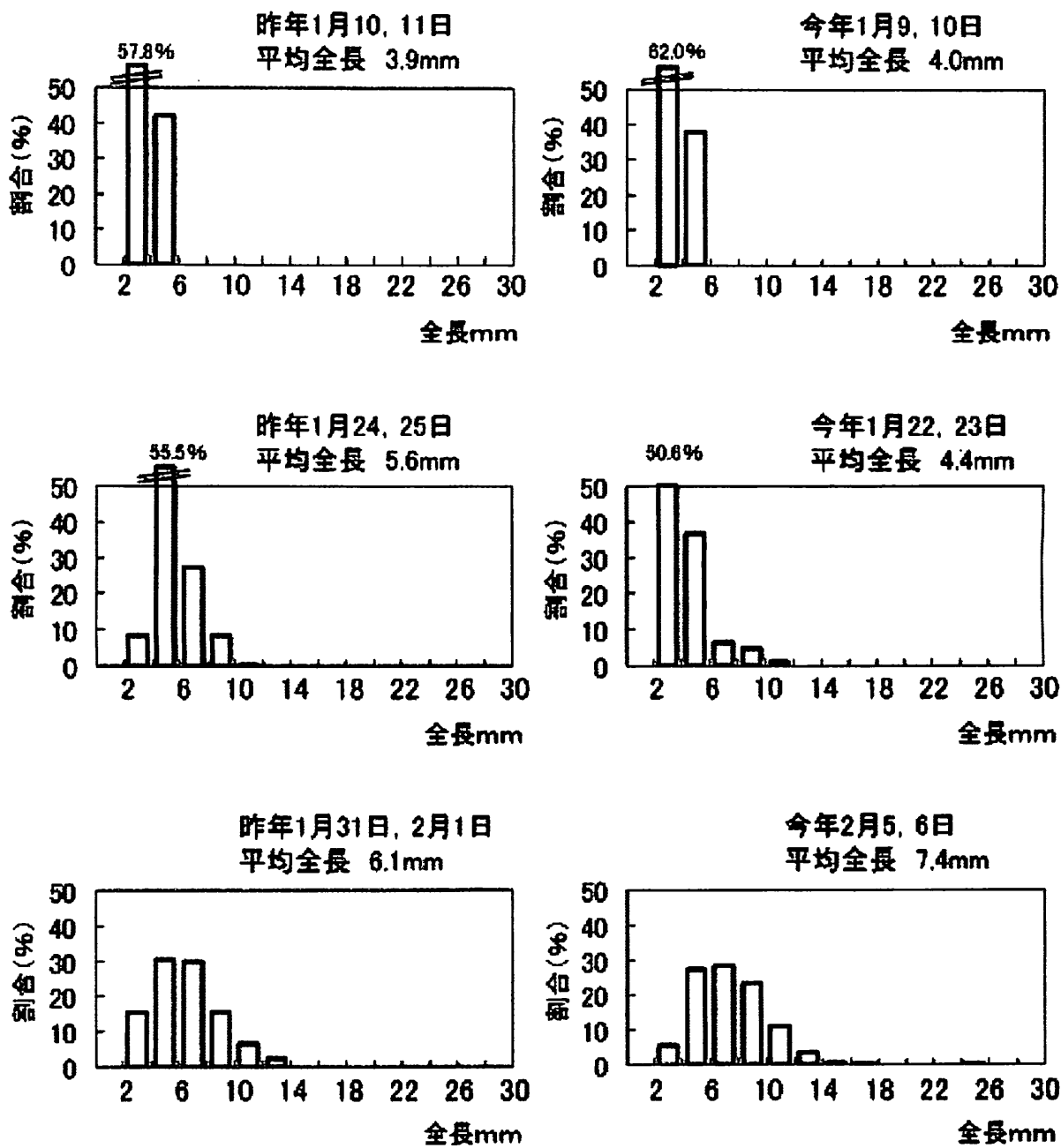


昨年1月31日, 2月1日 平均全長 6.1mm



今年2月5, 6日 平均全長 7.4mm

図4 昨年と今年のイカナゴ仔魚全長組成の比較



昨年

今年